

大栄サービス

飲料保管施設が完成

燃料化事業の拡大へ

大栄サービス(兵庫県西宮市、赤澤健一社長、☎0798・47・7626)は、有機性廃棄物をバイオソリッド燃料に加え、再資源化事業の付帯設備として、廃棄飲料専用の保管施設「リバー・スマネジメントセンター」を建設した。



保管施設の内観

保管容量は約585立方メートル。日量100トンの処理能力を有する燃料化施設稼働率は約70%に達し、今後、大手物流企業と連携して廃棄飲料の取扱量拡大を目指す。

建設費約1億円を投じて完成した同センターは今年3月、産業廃棄物の積み替え・保管施設の設置許可を取得。保管ヤードの面積は約195平方メートルで、2層PETボトル約30万本を保管できる。許可品目は動植物性残さ、廃酸、廃アルカリ、廃プラ、金属くず、ガラスくずで、主に製造・販売ルートで発生した廃棄飲料の保管と二次選別を目的としている。

保管施設の利点としては、排出事業者である食品メーカーや物流会社の不良在庫の圧縮と倉庫の回転率向上を挙げている。運搬・保管・処理業務を含めたトータルサービスを通して、顧客先に返品作業の効率化を提案する。24時間体制のセキユリティシステムを導入し、廃棄商品の流出を防いでいる。

廃棄飲料は、同センターにて段ボールと飲料容器に手選別し、破碎処理

施設で液体と容器類に分離する。破碎した容器は、品目別に再生利用している。液体は、燃料化施設に搬入後、乾燥工程を経て粉末状に加工している。完成した燃料は、セメントメーカーのホイール燃料として出荷する。同社は2007年3

月、燃料化施設を完成させて、飼料化やたい肥化など従来の再生利用ルートと組み合わせ、食品リサイクルの提案事業を拡大した。改正食品リサイクル法の施行に伴い、炭化や熱回収など再生利用手法の追加も検討している。